



File 13

http://www.daihatsu-kyushu.co.jp/

ダイハツ九州株式会社

- 所在地：大分県中津市大字昭和新田1番地
- TEL：0979-33-1230
- 事業内容：自動車、産業車両、各種車両及び、その他部品の開発・設計・製造など。
- 雇用人数：健康者約2500人 障がい者18人

- 沿革：1960年 ダイハツ工業株式会社の全額出資子会社として「株式会社ダイハツ前橋製作所」設立
- 1977年 「ダイハツ車体株式会社」に商号変更
- 2004年 前橋工場閉鎖 大分(中津)工場本格操業開始
- 2006年 「ダイハツ九州株式会社」に商号変更
- 2007年 大分(中津)第2工場操業開始

地域との共生、地域に根ざした企業を目指し、障がい者の雇用にも取り組んでいます。

現在の障がい者の雇用状況等について

雇用している障がい者の状況

軽度知的障がい者3人、身体障がい者15人(聴覚障がい者8人、視覚障がい者1人、内的疾患2人、四肢障がい4人)。知的障がい者は2007年に採用を始めた。(08年4月の新卒2名入社予定)

どんな仕事をしているか

知的障がい者3人は、組立ラインへ供給する各部品の前準備をする作業を担当。部品にナットをつけたり、ワイパーを組み立てるなど、11種類の部品を扱っている。

彼らの作業を集約して”スマイル工程”と名付け、専任のコーチスタッフと一緒に作業している。



工場内の様子

障がい者を雇用して良かった点

障害者就業・生活支援センターや、知的障がい者を雇用しているほかの企業など、会社として横のつながりができ、幅が広がった。

コメント

障がい者雇用担当者

総務・人事部 人事室長 大辻 文雄さん



会社の全面移転(群馬県前橋市から大分県中津市)と雇用の急激な拡大に伴い、障がい者の雇用率確保が難しく、大分労働局及び中津ハローワークの所長さんの助言を頂き、知的障がい者雇用の取り組みをはじめました。

知的障がい者の受入については心配もありましたが、実績のある企業の見学と、障害者就業・生活支援センターサポートネットすまいるさんとの連携で実現できました。

今後も継続した障がい者の雇用を考えており、より一層

働く楽しみ・やりがいを見出せる職場づくりに取り組んでいきます。

現職障がい者

組立供給課 相良 裕二さん



社会人としてのあいさつや業務中の対応など勉強になることがたくさんあります。

就職して良かったと思うところは、自分で頑張った分、貯金ができること。お金をためて、親の面倒を見られるようになりたいです。



Let's Open up the future together

OITA 2008

プロセス

STEP 1

雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

前橋市に工場があった時から身体障がい者を雇用した実績があった。

中津市に進出後、地域社会へのさらなる貢献を考え、知的障がい者の雇用を検討するようになった。



専任のコーチスタッフ(中央)

STEP 2

どんな問題点にぶつかったか

知的障がい者を初めて受け入れるため、障がいによどのような特性があるか調べたり、彼らができる作業はどんな作業か探すことだった。

知的障がい者施設で勤務経験のある人を工場内の専任コーチスタッフとして雇用。まず、このスタッフが工場内の作業工程を覚えて、採用した3人の知的障がい者に指導できるよう受け入れ体制を整えた。

STEP 3

それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか

・専任コーチスタッフの安部裕俊さんによる指導内容。

- ① 慌ててしまうと本来の作業が乱れてしまうので、一回作業をとめて、落ち着かせるようにしている。
- ② 製品に求められる厳格なチェックなどは、知的障がい者には理解しにくく「これくらい、いいや」という気持ちがあったので、障がい者にとって身近な話題を例にし、「買ったものに傷が入っていたら、いやな気持ちになるし、それに会社の信用も落ちる」と意識付けしている。
- ③ 屋内ということで安心してしまおう知的障がい者が工場内を不用意に歩いて、常に往来している運搬車に衝突しそうになった。一般の道路と同じように交通ルールがあることを理解してもらい、決められた場所を必ず歩くよう指導した。



部品にナットをつける作業



ワイパーの組み立て準備作業

社内環境

敷地内にある多目的グラウンドでは、サッカー部・野球部等、クラブ活動も活発に活動しています。

地域住民と交流する年1回のダイハツ祭りや、親子体験教室開催、月に1度定期的な敷地内外の清掃などを行い、環境に配慮した取り組みで地域に愛される企業を目指しています。

